

2013年度 ユニセフお年玉募金贈呈式 感想まとめ

サブテーマ：みんなが愛のメッセンジャー “笑顔と希望のプレゼント”

2014. 3. 1 (土) コープパーティ

★今日の取り組みはいかがでしたか？（楽しかったことは何ですか？）

- ・初めの話では、ユニセフについてやラオスと生協の関わりなどがよく分かりました。また、映像などがあったので、その時の様子がよりよく伝わってきました。スタンプラリーでは、ラオスの文字や文化について楽しみながら、知ることができました。とても楽しむことができた時間でした。
- ・自分たちでこのような活動をしよう！と、生協さんはとてもすごいと思いました。そのようなことは大切だなあと感じます。気持ちよく歌えたり、このようなユニセフのことを学べる機会ってというのは、はじめてだったし、こういうことでユニセフのことを知れたので、参加できたことをうれしく思います。
- ・「ラオ語を書いてみよう」のコーナーで、自分の名前をかいたのが、たのしかったです。「こんにちは」「ソウさん」「ありがとうございます」の3つをかいたり、よんだりしたのがとてもたのしかったです。そして、みんなぞくいしょうをきいたりして、しゃしんをとったりしたことが、たのしかったです。水をはこぶのは、とてもおもたかったです。うでをはかって、えいようがたりているか、たりていないかや、まちがいさがしも、べんきょうになりました。「ラオ語」をもっとしりたいとおもいました。
- ・ラオスの子どもたちのうでの太さは、細い子で10何センチしかないんだなと思ったら、かわいそうだなと思いました。みなさんが「わたしが呼吸するとき」の「愛と平和」のところをほめてくださった時、歌ってよかった！と思いました。手洗いダンスがあれば、ラオスの子どもたちも、ウィルスや細菌にやられることが少なくなると思いました。
- ・ラオスの服を着たり、字を書いたりしたのが楽しかったです。ラオスの服はかわいらしくて、きものみたいでした。ラオス語は、日本語と全くちがっていてむずかしかったけど、1つの言葉が書けるようになったら、とてもうれしい気持ちになりました。手洗いダンスを覚えれば、楽しくきれいにあらえるので、手洗いダンスをみんなに伝えて、病気の予防にしてくれたら良いなと思います。
- ・手洗いダンスが、想っていたことと全然ちがって、ちょっとはむずかしかったけど、おもしろかったです。ユニセフとラオスの大事なこととか、今はこんなことをしているなどのことが、くわしくよく分かりました。
- ・私は、ラオスタディツアー報告では、ユニセフの活動が行われる前と、行われたあとでは、水がくめるようになったり、トイレができた、いろいろな事が知れて楽しかったです。手洗いダンスも、手洗いの仕方がよく分かったので、手洗いは大切だなと思いました。民族衣装も、一回でも着られたのでうれしかったし、楽しかったです。
- ・合唱をして、会場のみなさんが「よかったよ」と言ってくださったことと、スタンプラリーが遊びながら学べたから楽しかったです。
- ・ラオ語や民族衣装などの体験で、ラオスのことがよく分かりました。テレビなどでユニセフの活動も分かりました。日本が世界の役に立っていると知れてよかったです。これからもやり続けてほしいです。
- ・写真やグラフなどを使って、いろいろ教えてくれたので、とても分かりやすいなと思いました。また、スタンプラリーで、実際に人々が行っている水くみなどを体験できたので、よく分かりました。



- ・民族いしょうやラオ語の書き方が分かって、中学になっても使えると思ったので、参加して良かったなと思いました。
- ・いろいろなゲームがあって楽しかったです。コープパリティのかたと、なかよくお話をできてうれしかったです。小学校に行けない子どもたちが、世界中にたくさんいることをしりました。
- ・スタンプラリーで、たのしみながら「ラオス」の事を知れた。
- ・楽しかったことは、たくさんのお話をきいたり、スタンプラリーをしたことです。
- ・水運びで、毎日これで行って運ぶのはとてもつかれると思うけど、いがいと楽しかった。
- ・みんなとたのしくユニセフにとりくめたことです。
- ・スタンプラリーで、水はこびたいけんするときが、一ばんたのしかった。
- ・スタンプラリー（2名）



- ・何と言っても、オープニングの地域の小学校の合唱部のお歌が良かったです。あのあと会場の雰囲気・空気がすっごく変わりました☆☆☆未来を担う子どもたちの参加が、本当に全体をなごませてくれました。留学生の参加もうれしく、最後のごあいさつにも感動しました。ラオ語を書くコーナーでは、ちょっとだけ交流もできました。子ども達も自分の名前を覚えてもらって、うれしそうでした。全体的なプログラムの構成も良かったと思います。

- ・西京極小学校合唱部のみなさんの、すばらしい合唱。ユニセフお年玉募金贈呈式にふさわしい選曲で盛り上げてくださって感動しました。大野名誉領事さんのお話にあった「そうさんありがとうコンサート」に、合唱部のみなさんが出られたら、さらにすばらしいなあと期待したい気持ちです。小野田さんのお話も、ますます上手になられ、スライド動画も見やすく、楽しく学習できました。



- ・西京極小学校合唱部のみなさんの歌声にはじまり、すばらしい式になったと思います。子どもと一緒に参加させていただきましたが、スタンプラリーに喜んで楽しんでいました。小学校の子どもたちがたくさん参加してくれ、ユニセフの活動を知ってくれたことは、とても有意義なことだと感じました。

- ・ほのぼのとした贈呈式でした。構成もうまく出来ていたように思います。西京極小学校の合唱は天使の歌声のようで、とても素敵でした。小野田さんのお話は、子ども達にもわかりやすく良かったです。ユニセフ、ラオスの事を子ども達に少しでも知ってもらえて良かったと思います。ありがとうございました。

- ・オープニングの小学生たちの歌に感動しました。手洗いダンスも楽しかったです。小野田さんのお話は子どもたちにもわかりやすく、ラオスの様子が伝わりました。岡本さんのお話で、京都生協のラオス指定募金の取り組みや、ラオスについて学ぶことができました。スタンプラリーの時間がもう少しほしかったですが、いろんなコーナーがあって楽しくすごせたと感じます。ラオスの民族衣装を着た子どもたちが、かわいらしかったです。京都市動物園にラオスから4頭もゾウが来てくれるのは、本当に楽しみです。来年2月14日に開催予定の「そうさんありがとうコンサート」に、ぜひ行ってみたいと思いました。

- ・はじめて参加しました。西ブロックの取り組みでもあり、実行委員として参加させて頂きました。西京極小学校の合唱部の歌は、すばらしいものでした。渡邊理事長さんの挨拶も心に残り、私達に返りかけなくて接して下さり感動しました。本当に良い結果で、参加させて頂いて嬉しかったです。

- ・合唱がすばらしかったです。「民族衣装を着てみよう」コーナーがよかったです。色々と勉強になりました。本当にたくさん子ども達に、笑顔と希望が届いているのがわかって、うれしかったです。
- ・盛りだくさんでした。まじめな面もあり、楽しい面もあり、気楽で良い贈呈式だったと思います。自分の担当の「ラオ語」の所も、思ったより自然に出来たし、子ども達も楽しんでくれた様子で嬉しかった。
- ・「ラオ語を書いてみよう」のコーナーを担当しました。たくさん子どもに参加してもらって大盛況でうれしかったです。
- ・とっても勉強になりました。また、ボラで行きたいと思いました。



★お話を聞いたりスタンプラリーをして、お友達に教えてあげたいことはありましたか？

- ・ラオスなどもそうだけれど、ユニセフなどの国際機関が手助けしたら、いろんな人の笑顔が増えるんだよということを教えたいです。また、そのために、生協などにある募金箱に募金して、私たちも少しは役に立てるんだよということも、教えてあげたいと思いました。
- ・世界には、貧しい暮らしをしている人がたくさんいて、病気になったりして、5さいのたん生日がむかえられない人などいることが分かりました。100円をぼ金して薬を買うことができ、1人でも多くの方がぼ金すると、1人でも多くの命が助かるので、ユニセフのぼ金箱を見かけたら、進んで100円をぼ金したいし、してほしいと思います。
- ・日本もユニセフに助けてもらっていたんだ、という事を教えてあげたいです。そのことを知ったら、私たちも助けようと思ってくれる人が増えると思ったからです。ユニセフは、学校を作ったり、水、食べ物、テント、薬などをとどけたりする活動をしているよと伝えたら、ユニセフのありがたさが分かって、興味を持ってくれる人がいるから、ユニセフの活動を伝えたいです。日本とちがって、少し不便な所もあるかもしれないから、日本と同じようなくらしができて、公平になるのをおうえんしています。お話を聞いて、助けてあげたいと思いました。今まで、全然考えていなかったけど、他の国との関わりも大切だから、自分に何ができるかをしっかり考えて協力しようと思いました。
- ・民族いしょうとか、日本とはちがう服を体験できたり、とてもきちょうなことをさせていただきました。ユニセフの活動がはじまる前と後のちがいを、みんなにも知ってもらいたいと思いました。
- ・ラオスの人は、病気がなおらなくて、命を失う人や、きれいな水が飲めない、使えない人、栄養が足りない人や学校に行けない人、紛争にまきこまれてしまう人や、5さいのたん生日をむかえられずに命を失ってしまう子どもが、1年間に760万人いることなどをおしえたいです。わたしたちのにちじょうで、水がのめたりする、ふだんしていることは、ラオスなどでは、ふつつではないということも、おしえてあげたいです。そして、ぼきんばこにおかねをいれて、ラオスの人たちのためになることをしたいです。
- ・友達に、ラオスの子どもたちは、水運びばかりして学校にすらいけないということや、子どもたちは、食べ物あまりなくて、「うで」は10何センチしかないということをおしえてあげたいです。
- ・日本は、こまっている国を助けているということ。日本にいたことが、ほこりに思うということ。ほかにもいっぱいユニセフが役に立てる国（困っている国）があるということ。
- ・ユニセフという活動があることを知ってもらって、自分達にできることとかを考えてほしいです。水運び体験をして、こんなに重い物を、自分達より小さい子が、毎日長時間運んでいることを知って、友達に教えて、ちょっとでも楽しんであげたいと思う人を増やしたいです。

- ・ユニセフの活動をはじめると、はじめたあとで、水が、いどでくめなかった時もあったけど、活動がはじまったら、いどで水がくめようになった事や、トイレもできたことや、学校ができたや、野菜が食べれるようになったり、よぼうせっしゅができるようになったことや、手洗いは手のひらや手のこうだけでなく、指の間などもわすれないで手洗いをする事です。
- ・ラオスには、いろいろな民族がいて、その民族ごとに言葉の話し方がちがうから、ちがう民族どうして会話は出きないことを教えてあげたいです。
- ・話しを聞いたり、スタンプラリーをして、世界の人々が苦しんでいるのを知って、友達にその話を教えてあげようと思いました。
- ・学校のあさのかいで、いいました。ラオスのりょうり（虫）をたべたと言うと、みんな、まずしいことがわかったようでした。
- ・100円で人の命を助けられることや、ユニセフがまずしい地域に行き、ボランティアに協力していることが分かりました。
- ・ラオスの人々のくらしや、ユニセフぼ金の大切さを、教えてあげたいと思いました。
- ・日本で、あたり前にできることでも、ラオスでは、あたり前にできることが少ない。
- ・ユニセフでもっと、しえんしたらいいということ。
- ・ラオご
- ・ありません。



- ・日本ではあたりまえの日常が、そうではない国が多くあります。何事も、まず学ぶこと、知ること、そして考えることが大切だと思います。ひとりの力は小さいけれど、そのひとりの力を出すことから大きな力になり、社会も変えていけるのだということを信じて、まずは、ユニセフ博士修了証に書いてあったように「自分にできることから始めてみよう」、ここからスタートしたいと思います。
- ・ラオススタディツアーに参加された小野田さん、岡本さんの報告を聞いて、自分の心に少しでも良い印象が残りましたのでよかったです。
- ・助け合うって大事だよ。つながるっていいね。歌はつながるためのいいツール！！
- ・象がくる。

(全部で29枚のアンケートを提出いただきました)

